

阿波

鳴門の
風情

六十余年の
名所図

16th JSMD プログラム

会長講演

特別講演 1～2

教育講演 1～4

シンポジウム 1～9

双極性障害委員会企画シンポジウム

気分障害の治療ガイドライン作成委員会企画シンポジウム

倫理委員会企画シンポジウム

自殺対策委員会企画シンポジウム

多職種連携委員会企画シンポジウム

自殺予防研修会

診療教育委員会企画 第13回うつ病診療講習会

学会奨励賞・下田光造賞 受賞講演

会長講演

7月5日(金) 14:20～15:10

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

PL1 うつ病診断の現状と今後

座長	三村 将	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
----	------	--------------------

演者	大森 哲郎	徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
----	-------	----------------------

特別講演 1

7月5日(金) 13:00～14:00

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

ILE1 Modelling, Measuring and Managing Melancholia

同時通訳付

座長	大森 哲郎	徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
----	-------	----------------------

演者	Gordon Parker	School of Psychiatry, University of New South Wales (UNSW), Australia
----	---------------	---

特別講演 2

7月6日(土) 13:20～14:20

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

ILE2 ネガティブケイパビリティ — 答えの出ない事態に耐える力

座長	大森 哲郎	徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
----	-------	----------------------

演者	帚木 蓬生	作家、精神科医
----	-------	---------

教育講演 1

7月5日(金) 15:20～16:20

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

EL1 ICD-11の気分症<障害>と関連症群

座長	加藤 忠史	理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム
----	-------	------------------------------

演者	神庭 重信	九州大学 名誉教授 / 一般社団法人日本うつ病センター / 栗山会飯田病院
----	-------	---------------------------------------

教育講演 2

7月5日(金) 16:30～17:30

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

EL2 とともに悲嘆を生きるということ —— グリーフケアの文化と歴史

座長	張 賢徳	帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
----	------	--------------------

演者	島蘭 進	上智大学グリーフケア研究所
----	------	---------------

教育講演3

7月5日(金) 16:30 ~ 17:30

あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

EL3 ひきこもりと対話実践

座長	井原 裕	獨協医科大学埼玉医療センターこころの診療科
演者	斎藤 環	筑波大学医学医療系社会精神保健学

教育講演4

7月5日(金) 16:30 ~ 17:30

あわぎんホール 第3会場(4F 会議室2~4)

EL4 対人関係療法を日常臨床に活かす

座長	端詰 勝敬	東邦大学医学部心身医学講座
演者	近藤 真前	名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

シンポジウム1

うつ病の心理的ケアー精神医学、心理学、宗教学の協働を考えるー

7月5日(金) 9:20 ~ 11:20

あわぎんホール 第1会場(1F ホール)

オーガナイザー	張 賢徳	帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
---------	------	--------------------

【趣旨・狙い】

うつ病は精神医学的な病気であり、医学的な治療を要する。しかし、薬物療法に代表されるような身体的治療だけで完治に至るケースは少ないのが実情であり、心理的なケアも重要である。この点は主治医である精神科医も十分に認識しており、サイコセラピーを勉強して実践し、必要に応じて臨床心理士とも協働してきた。しかし、患者数の多さや、サイコセラピーへの診療報酬の低さ等のために、日常臨床でサイコセラピーが均てん化されているとは言い難い。臨床現場の実情に即したサイコセラピーの実践が求められる。加えて重要なことは、通常のサイコセラピーではカバーしきれない、例えばスピリチュアルな問題に対するケアをどうすればよいのかという臨床課題である。ここに、宗教が培ってきた英知を活用できるのではないかと考え、本シンポジウムを企画した。うつ病のトータルケアに、精神医学、心理学、宗教学の協働を考えたい。

座長	張 賢徳	帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
----	------	--------------------

- SY1-1 生物心理社会モデルに基づくうつ病の病態メカニズム
山本 哲也 徳島大学大学院社会産業理工学研究部
- SY1-2 うつ病に対する認知行動療法：言葉による治療の効果
中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター
- SY1-3 キリスト教の歴史的諸展開とうつ病ケアへの親和性
伊藤 高章 上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻
- SY1-4 仏教の視点から見たうつ病ケア
玉置 妙憂 医療財団明善会小岩榎本クリニック / 大慈学苑

シンポジウム2 発達障害の特性をもつ成人の診断と支援

7月5日(金) 9:20 ~ 11:20

あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

オーガナイザー 秋山 剛 NTT 東日本関東病院精神神経科

【趣旨・狙い】

発達障害の特性が診断基準の閾値下である人が、成人後、就学、就労した後に、適応上の困難を来し、うつや不安などの症状を呈することがある。本シンポジウムでは、「成人精神科患者の閾下発達障害特性を評価することの意義」について、包括的な精神医学的評価に重要な一側面としての発達障害特性評価の意義について、国内外における最近の研究成果を紹介しながら考察し、「発達の偏りについての、大学・職場・診察室での理解と対応」について臨床現場での評価の視点や対応の実際について整理を試み、気分障害・不安障害を併存する対象者の復職支援に取り組んできた現場からは「休職体験を『捉え方の見直し』につなげる」という視点から「仕事を通したりカバリー」をもたらす支援のかたちについて考察を加え、「支援のための連携」について、発達障害の専門家と様々な関係者の連携の可能性について検討する予定である。本シンポジウムが、閾値下発達障害特性を持つ人のよりよい社会適応につながればと考えている。

座長 秋山 剛 NTT 東日本関東病院精神神経科

SY2-1 成人精神科患者の閾下発達障害特性を評価することの意義

神尾 陽子 発達障害専門センター / お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 / 精神・神経医療研究センター精神保健研究所

SY2-2 発達の偏りをもつ人たちへの、大学・職場・診察室での理解と対応

吉田 友子 子どもとおとなの心理学的医学教育研究所 (iPEC) / よこはま発達クリニック

SY2-3 休職を機に「思考-行動システム」のバージョンアップを図る ～自閉スペクトラム特性がある患者への復職支援

村田 俊郎 医療法人財団光明会明石こころのホスピタル

SY2-4 支援のための連携

秋山 剛 NTT 東日本関東病院精神神経科

シンポジウム3 症例から学ぶ気分障害と器質疾患との鑑別

7月5日(金) 9:20 ~ 11:20

あわぎんホール 第4会場(5F 小ホール)

オーガナイザー 三村 将 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

【趣旨・狙い】

精神科の一般臨床において、気分障害と認知症ないし器質疾患との鑑別は重要であり、かつしばしば難渋することはよく経験するところである。本シンポジウムでは、うつ病・双極性障害と鑑別が難しかった器質疾患症例、あるいは逆に器質疾患を疑ったがやはり気分障害圏であったと考えられた症例について、自験例を挙げていただき、Q&Aを踏まえて議論していく。抄録の段階ではあえて診断名や明らかにそのcueとなるデータは伏せ、聴衆と一緒に参加型で考えていきたい。

座長 三村 将 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

馬場 元 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック / 順天堂大学大学院医学研究科・精神行動科学

SY3-1 うつ病との鑑別を必要とした認知症の一例

平野 仁一 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

SY3-2 抑うつ症状、身体症状を呈した高齢女性の一例

前嶋 仁 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 / 順天堂大学医学部精神医学講座

SY3-3 身体不定愁訴、意欲低下ともの忘れを主訴に受診した1例

互 健二 東京慈恵会医科大学精神医学講座 /
量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所 脳機能イメージング研究部

SY3-4 症例から学ぶ気分障害と器質疾患との鑑別

片桐 建志 杏林大学医学部精神神経科学教室

シンポジウム4 これからのうつ病治療

7月5日(金) 9:20 ~ 11:20

あわぎんホール 第5会場(5F 会議室6)

オーガナイザー

佐野 信也 防衛医科大学校心理学科
戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座

【趣旨・狙い】

うつ病治療は、エビデンスやガイドラインに則った標準的なものを行うことが重要である。しかしながら、STAR*D研究で、抗うつ薬の3回の切り替えまでの累積寛解率は約67%であったと報告されているように(Rush aJ et al, 2006)、標準的な治療のみでは不十分な治療経過になる症例は少なからず存在する。そのため、本シンポジウムでは、基礎/臨床研究の第一線で活躍する研究者によって、標準的な治療を超えた、うつ病のこれからの治療について討論する場としたい。各々の演者の専門分野に関連があるテーマについて、現在研究段階にあるものから臨床応用が進められているものも含めて、その生物学的メカニズムから現時点での臨床効果の程度についてまで、幅広く、討論する予定である。

座長

戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座
朴 秀賢 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野

SY4-1 幼少期ストレスから考える治療

戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座

SY4-2 炎症から考える治療

岩田 正明 鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野

SY4-3 これからのうつ病治療におけるニューロモデュレーション

嶽北 佳輝 関西医科大学精神神経科学教室

SY4-4 神経細胞新生・神経可塑性に注目したうつ病治療

朴 秀賢 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野

シンポジウム5 気分障害の認知機能障害の評価と治療

7月5日(金) 14:20 ~ 16:20

あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

オーガナイザー 中川 伸 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

【趣旨・狙い】

統合失調症や気分障害(うつ病、双極性障害)などの非器質的精神疾患においても、それぞれに認知機能障害が見られ、症状や経過、生活能力、予後に大きな影響を及ぼすことが報告されてきている。気分障害は情動制御が主たる障害領域であるが、本シンポジウムは認知機能に焦点を当てる。認知機能をどのように評価するか、精神疾患横断的にどのように理解するか、揺れ動く気分の状態とどのように関連するのか、治療のターゲットとするべきなのか、現在考えられている薬物療法、非薬物療法(特に認知リハビリテーション、ニューロモデュレーション)はどのようなものであるのかなどを検証し、考察していきたい。

座長 中川 伸 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座
住吉 太幹 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

SY5-1 気分障害の認知機能障害の評価と治療
住吉 太幹 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

SY5-2 気分障害の認知機能障害に対して、薬物療法は有用なのか？
加藤 正樹 関西医科大学精神神経科学講座

SY5-3 気分障害における認知機能改善療法の効果
豊巻 敦人 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

SY5-4 認知機能障害へのニューロモデュレーション：反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)
鬼頭 伸輔 東京慈恵会医科大学精神医学講座

シンポジウム6 反復経頭蓋磁気刺激療法の導入と展開

7月6日(土) 9:15 ~ 11:15

あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

オーガナイザー 鬼頭 伸輔 東京慈恵会医科大学精神医学講座

【趣旨・狙い】

わが国でも、うつ病の新規治療法として、反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)が導入された。その適応は、抗うつ薬による薬物療法が奏功しない中等症以上の成人のうつ病患者である。また、第2世代の深部経頭蓋磁気刺激(dTMS)も、近く上市されると聞く。このように、うつ病の新たな治療選択肢が広がる一方、臨床研究を除けば、実臨床における使用経験は少なく、これからその有用性が評価されていくものと考えられる。本シンポジウムでは、現在までに蓄積されたEBMからrTMS療法の有効性と有用性について論じ、つぎに、すでに確立した治療法である電気けいれん療法(ECT)とrTMS療法の抗うつ療法としての位置づけについて提示し、議論を深める。また、rTMS療法を導入するにあたって、診療や研究に関する実践的な立場から、その取り組みを報告してもらう。さいごに、rTMS療法の現況の課題と新規治療法としての可能性、展開について纏める。

座長 三村 将 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
鬼頭 伸輔 東京慈恵会医科大学精神医学講座

SY6-1 EBMから見たrTMS療法の有効性と有用性
野田 賀大 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

SY6-2 うつ病診療における反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)療法の位置づけ：電気けいれん療法との対比からの検討
高橋 隼 和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室

SY6-3 反復経頭蓋磁気刺激療法 (rTMS) の大学導入への取り組みと安静時ネットワークの電気生理学的変化から見る臨床の効果

池田 俊一郎 関西医科大学精神神経科

SY6-4 rTMS療法の課題と展開

鬼頭 伸輔 東京慈恵会医科大学精神医学講座

シンポジウム7 抗うつ薬の臨床試験のあるべき姿

7月6日(土) 9:15 ~ 11:15

あわぎんホール 第3会場 (4F 会議室2 ~ 4)

オーガナイザー 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

国内外で抗うつ薬の臨床試験がなかなか上手く行かない状況が続いている。その背景としてプラセボ反応の高さや評価が評価尺度に依拠している点など特に精神科領域における試験の難しさがあると思われる。本シンポジウムでは抗うつ薬の臨床試験における諸問題を概説し、国内外における工夫、そして今後臨床試験のあるべき姿について議論していきたい。

座 長

渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
渡部 芳徳 医療法人社団慈泉会市ヶ谷ひもろぎクリニック /
医療法人社団慈泉会南湖こころのクリニック /
医療法人社団慈泉会ホヅミひもろぎクリニック

SY7-1 抗うつ薬の臨床試験における諸問題

渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

**SY7-2 抗うつ薬の臨床試験の難しさと工夫、そして今後のあるべき姿
～製薬企業の視点から～**

小居 秀紀 国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター
情報管理・解析部

SY7-3 海外における臨床試験を成功させるための工夫

中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

SY7-4 治験担当医から見る臨床試験への提言

渡部 芳徳 医療法人社団慈泉会市ヶ谷ひもろぎクリニック /
医療法人社団慈泉会南湖こころのクリニック /
医療法人社団慈泉会ホヅミひもろぎクリニック

シンポジウム8 栄養と運動と気分障害

7月6日(土) 9:15 ~ 11:15

あわぎんホール 第4会場(5F 小ホール)

オーガナイザー 吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

医学の父ヒポクラテスは、人間は血液、粘液、黄胆汁、黒胆汁から出来ており、その4体液のバランスが崩れて病気になると考えた。そしてこのうち黒胆汁が増加することがうつ病の原因であると提唱した。メラニコリー(憂鬱)という言葉はメラノス(黒い)・コノス(胆汁)に由来する。その当時、うつ病の治療法としては、転地療法、食事療法、生活療法などが行われていた。生活習慣とうつ病の合併率は高く、両者にはその病態には共通の因子が関与している可能性がある。また、うつ病に対する非薬物療法として運動や栄養が有効であるとの報告がある。コクランレビューではうつ病に対して運動療法が薬物療法や精神療法と同等の効果が期待できると結論づけている。しかし、現状ではどのような程度やタイプのうつ病にどのような運動をどの程度行えばよいかは不明である。栄養とうつ病との関係についても十分に強固な結論は出ていない。本シンポジウムでは栄養・運動が気分障害に及ぼす影響について、うつ病の病態仮説に基づき考察したい。さらに、最近注目を集めている腸内細菌とうつ病との関係についても言及したい。

座長 吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室
功刀 浩 国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部

SY8-1 栄養と気分障害
功刀 浩 国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部

SY8-2 運動とシナプス可塑性
吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室

SY8-3 運動と気分障害
池ノ内 篤子 産業医科大学医学部精神医学教室

SY8-4 腸内環境と気分障害
相澤 恵美子 国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部 /
名古屋経済大学人間生活科学部管理栄養学科

シンポジウム9 みんなで診よう、こどものうつ病

7月6日(土) 14:30 ~ 16:30

あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

オーガナイザー 伊賀 淳一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

【趣旨・狙い】

こどものうつ病を専門とする児童精神科医は、まだまだ不足している。児童精神科医が少ない地域では、診察を受けるために何週間も待機する場合もある。こどものうつ病を専門医に丸投げにせず、一般の精神科医がある程度対応できれば、うつ病に苦しむ子どもとその家族にとっては大きな助けになる。そこで本シンポジウムでは、地域で活躍する新進気鋭の児童精神科医4名から、一般の精神科医がこどものうつ病を診るための基本的な知識を提供していただくとともに、オール精神科医でこどものうつ病に対峙するにはどうすべきか議論する予定である。

座長 伊賀 淳一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座
堀内 史枝 愛媛大学医学部附属病院子どものこころセンター・精神科

SY9-1 子どもの「うつ病」と「睡眠障害」
堀内 史枝 愛媛大学医学部附属病院子どものこころセンター・精神科

SY9-2 発達障害とうつ
中土井 芳弘 四国こどもとおとなの医療センター

SY9-3 こどものうつ病と薬物療法

宇佐美 政英 国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科

SY9-4 子どものうつ病と精神療法

鈴木 太 福井大学こどものこころの発達研究センター

双極性障害委員会企画シンポジウム

異種性を念頭に置いた双極性障害の診立てと治療戦略を考える

7月5日(金) 9:20 ~ 11:20

あわぎんホール 第3会場(4F 会議室2~4)

オーガナイザー

白川 治

近畿大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

双極性障害は、その薬物反応性をとってみてもリチウム反応性がどうかをはじめ一様でないことに加え、その予後も社会で重要な役割を果たしつつ活躍できるレベルから日常生活にすら支障をきたすレベルまで多様である。DSM-5において、双極性障害を気分障害の下位分類から独立させた背景には、反復性うつ病の近縁から統合失調症の近縁に至る双極性障害の異種性を念頭に置いたからにちがいない。本シンポジウムでは、双極性障害の異種性を、1) 認知機能障害、2) 神経画像学的知見、3) 分子遺伝学的知見、4) 薬物反応性から論じていただき、双極性障害の異種性についてそれぞれの知見をインテグレートしつつ、双極性障害の新たな診療ストラテジー構築に向けた足がかりとしたい。

座長

上野 修一

愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学教室

白川 治

近畿大学医学部精神神経科学教室

BS-1 認知機能障害からみた双極性障害の異種性

住吉 太幹

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

BS-2 ニューロイメージングからみた気分障害の異種性

岡本 泰昌

広島大学大学院医系科学研究科精神神経医科学

BS-3 分子遺伝学からみた双極性障害の異種性

金沢 徹文

大阪医科大学神経精神医学教室 / フローリー研究所

BS-4 薬物反応性からみた双極性障害の不均一性(複雑性)

田中 輝明

KKR札幌医療センター精神科

気分障害の治療ガイドライン作成委員会企画シンポジウム うつ病治療ガイドラインアップデート

7月5日(金) 9:20 ~ 11:20

あわぎんホール 第6会場(3F 展示室6~8)

オーガナイザー 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

日本うつ病学会より2012年にうつ病治療ガイドラインが、2016年に児童思春期、睡眠障害を加えたver.2が発表された。

その後、日本医療研究開発機構(AMED)の支援を受け、ガイドラインのさらなるアップデートに向けて作業を進めて来た。

その結果、2018年11月にまず作業療法士向けのガイドラインを、また2019年4月現在、看護師向け、そして高齢者のうつ病ガイドラインも発表準備中である。本シンポジウムではこれまでの経緯、そして各ガイドライン開発の流れやポイントについて紹介する。

さらに、今後うつ病ガイドラインの進む方向性についても触れたい。

座長 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
杉山 暢宏 信州大学医学部保健学科実践作業療法学専攻

GS-1 日本うつ病学会大うつ病ガイドライン新しい活動の紹介

渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

GS-2 うつ病治療ガイドライン～作業療法士版の紹介

田中 佐千恵 信州大学医学部保健学科作業療法学専攻

GS-3 「うつ病看護ガイドライン」の作成と課題

野末 聖香 慶應義塾大学看護医療学部

GS-4 高齢者のうつ病治療ガイドラインの紹介

伊賀 淳一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

GS-5 当事者・家族の参加を含めたうつ病治療ガイドラインの今後の方向性について

坪井 貴嗣 杏林大学医学部精神神経科学教室

倫理委員会企画シンポジウム 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針・ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」への対応

7月5日(金) 14:20 ~ 16:20

あわぎんホール 第3会場(4F 会議室2~4)

オーガナイザー 秋山 剛 NTT 東日本関東病院精神神経科

【趣旨・狙い】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針・ヒトゲノム」「遺伝子解析研究に関する倫理指針」が施行されているが、これらの指針への対応に苦慮している施設が多いと思われる。今回のシンポジウムでは、臨床研究を活発に行っている4つの施設から、倫理指針への対応の現況と、各施設行っている工夫について発表していただく予定である。臨床研究を施行する際に、どのように倫理指針の要請をクリアすればよいか悩んでいる施設の方々には、是非参加していただければと考える。

座長 秋山 剛 NTT 東日本関東病院精神神経科
寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

ES-1 慶應義塾大学病院における倫理指針への対応：教育研修活動

中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

- ES-2 名古屋大学における対応
小笠原 一能 名古屋大学大学院医学系研究科精神医療学寄附講座
- ES-3 国立精神・神経医療研究センターにおける対応
清水 玲子 国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター
臨床研究支援部
- ES-4 肥前精神医療センターでの臨床研究法に関する対応
上野 雄文 肥前精神医療センター臨床研究部

自殺対策委員会企画シンポジウム 周産期のメンタルヘルスと自殺予防

7月5日(金) 14:20～16:20

あわぎんホール 第4会場 (5F 小ホール)

オーガナイザー 張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

【趣旨・狙い】

産後うつ病の存在が知られるようになって久しいが、最近、産後うつ病と自殺の関係があらためて注目され、2017年に改定された国の自殺総合対策大綱では、妊産婦への支援が重点課題の1つに挙げられた。また、2018年4月から開始され、2019年1月から凍結されたいわゆる妊婦加算も、その開始理由の1つに、精神疾患を有する妊婦に対するケアの重要性が挙げられていた。妊婦加算については、その運用の仕方に疑問が呈されたわけだが、メンタルヘルスに目を向けることの重要性が否定されたわけではない。周産期のメンタルヘルスは重要であり、それへの関心は高まっている。本シンポジウムでは、その背景を解き明かし、臨床現場の問題点を整理し、日常臨床でできることを多職種で考えていきたい。

座長 張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
太刀川 弘和 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

- SS-1 東京都23区における妊産婦の自殺の実態
引地 和歌子 東京都監察医務院
- SS-2 妊産婦自殺の現状と日本産婦人科医会の取り組み
相良 洋子 さがらレディスクリニック / 日本産婦人科医会
- SS-3 「周産期のメンタルヘルスと自殺予防」～助産師の立場から～
新井 陽子 北里大学看護学部
- SS-4 周産期メンタルヘルスの知見を臨床に活かす：妥当性の承認から治療導入へ
尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

多職種連携委員会企画シンポジウム 支援者の抑うつとバーンアウト

7月6日(土) 14:30～16:30

あわぎんホール 第3会場(4F 会議室2～4)

オーガナイザー

向笠 章子

広島国際大学大学院心理科学研究科実践臨床心理学専攻

【趣旨・狙い】

1995年に阪神・淡路大震災・2011年の東日本大震災等の大規模な地震の被災者に対する支援活動が初期から中・長期的に展開され、近年では2018年西日本豪雨でも同様の被災者に対する支援活動が行われてきています。この災害後の支援活動ではその規模にかかわらずに様々な職種の人間が被災者支援にかかわっており、今では中・長期的な支援を踏まえた活動が認知されています。一方で被災・被害者に対して支援を行う支援者に対するケアは、近年になって注目されてきたのが現状です。今回の企画はこの「支援者に対する支援をどうしていくか」をテーマにそれぞれの領域から支援者への支援の実際を含めた内容から検討していこうと考えています。

座長

沼 初枝

立正大学心理学部

山口 律子

日立キャピタル損害保険株式会社

- CS-1 **支援者の抑うつとバーンアウト：フロイデンバーガー（1974）から半世紀、支援者／治療者はずっと疲弊し、これからも状況は変わらないのだろうか。**
佐野 信也 防衛医科大学校心理学科
- CS-2 **災害派遣や国際平和協力活動に従事する自衛官のメンタルヘルスから支援者支援を考える**
谷知 正章 防衛医科大学校精神科学講座 / 防衛医科大学校学生部
- CS-3 **災害支援にあたる保健師のメンタルヘルス**
多田 和代 徳島県南部総合県民局保健福祉環境部（阿南）
- CS-4 **支援者のレジリエンスを育む試み**
栗原 幸江 がん・感染症センター都立駒込病院緩和ケア科 / 認定NPO法人マギーズ東京
- CS-5 **共感疲労と支援者のメンタルヘルス**
武井 麻子 首都大学東京健康福祉学部看護学科 / オフィス・アサコ

自殺予防研修会

自殺が生じたあとのケア：患者や同僚を失った医療者・勤労者のケア

7月6日(土) 14:30～17:00

あわぎんホール 第4会場(5F 小ホール)

オーガナイザー 河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

【趣旨・狙い】

自殺の予防、そして自殺の後に遺された人へのケアは、精神科、心理臨床、ないしは対人支援業務の中で重要な領域です。また、不意に生じた自殺事故等のメンタルヘルス事故後の対応は、職場における業務管理や労務管理、リスク管理上の課題でもあります。本研修会は、自殺事故後に生じるさまざまな課題を提示し、事故に遭遇した人、事故後に遺された人の反応と心理についてケース・スタディなどを通して学びます。そして、課題解決について、複数の観点からその方法論について学習します(事故後のグループを対象にした悲嘆ケアも例示いたします)。

座長 河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

講師、ファシリテーター 張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
大塚 耕太郎 岩手医科大学神経精神科学講座
太刀川 弘和 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学
稗田 里香 東海大学健康科学部
小山 達也 東京女子医科大学看護学部
津山 雄亮 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

※本研修会への参加は、事前登録制です。
残席がある場合のみ、当日登録を行います。

定員：40名

受講料：5,000円(テキスト代を含む)

診療教育委員会企画 第13回うつ病診療講習会

うつ病の寛解から完治・社会復帰へ向けてー職場のケース

7月5日(金) 14:20～18:20

あわぎんホール 第5会場(5F 会議室6)

オーガナイザー 川崎 弘詔 福岡大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

うつ病診療の実際を広く医療職に理解していただく事を目的にしている。特に職場復帰のケースを扱うので、産業医を対象に、単位の取得が可能にしている。特に、「うつ病の寛解から、完治へ」という点を目標にしているため、コメディカルの参加も期待している。また、精神科医も対象にし、復職に関する知識を取得していただく。

DS-1 うつ病診療での40年間の変化と職場のメンタルヘルス

五十嵐 良雄 医療法人社団雄仁会

DS-2 薬物療法の留意点

野村 総一郎 一般社団法人日本うつ病センター

DS-3 うつ病患者の対応の実際

信田 広晶 しのだの森ホスピタル

DS-4 対応の難しい「うつ病」患者

原田 康平 福岡大学医学部精神医学教室

症例解説 信田 広晶 しのだの森ホスピタル

原田 康平 福岡大学医学部精神医学教室

※本講習会への参加は、事前登録制です。

残席がある場合のみ、当日登録を行います。

定員：30名

受講料：12,000円(テキスト・受講修了証・軽食代を含む)

学会奨励賞・下田光造賞 受賞講演

7月5日(金) 16:30 ~ 17:30

あわぎんホール 第4会場(5F 小ホール)

座長

三村 將

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

1. 学会奨励賞

医学分野

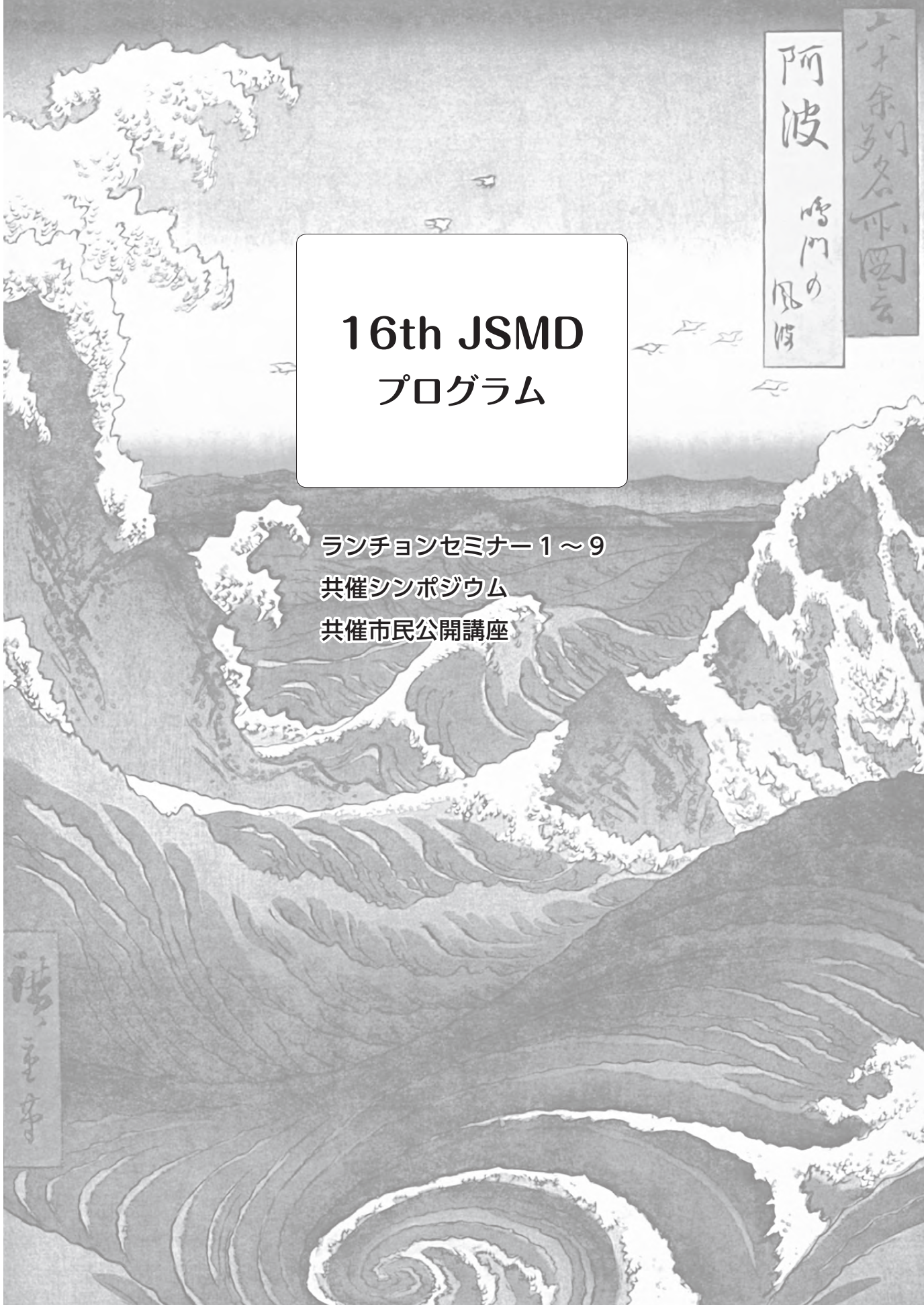
- P-17 機械学習によるMRIを用いた電気けいれん療法に対する個別の治療反応予測
高宮 彰紘 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 / 精神医学・行動科学研究所
- P-36 気分障害のバイオマーカーとしての血清中グリア細胞株由来神経栄養因子(GDNF)に関する多施設共同研究
井手本 啓太 千葉大学大学院医学研究院精神医学
- P-56 精神疾患における認知機能障害と社会活動時間との関連
宇野 洋太 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神疾患病態研究部

医療保健分野

- P-29 個人に最適化されたうつ病再発兆候の早期発見技術の開発
—心理・社会・生物学的データに対する機械学習法の適用—
山本 哲也 徳島大学大学院社会産業理工学研究部

2. 2019年下田光造賞

- KS-1 Optimising first- and second-line treatment strategies for untreated major depressive disorder — the SUN☺D study: a pragmatic, multi-centre, assessor-blinded randomised controlled trial
大うつ病に対する新規抗うつ剤の最適使用戦略を確立するための大規模無作為割り付け比較試験
加藤 正 あらたまこころのクリニック
- KS-2 Circadian Rhythm Sleep-Wake Disorders Predict Shorter Time to Relapse of Mood Episodes in Euthymic Patients With Bipolar Disorder: A Prospective 48-Week Study
概日リズム睡眠・覚醒障害は寛解期双極性障害患者の早期再燃の予測因子となる：48週間の前向き観察研究
高江洲 義和 杏林大学医学部精神神経科学教室



六十余の名山可圖を

阿波 鳴門の
風情

**16th JSMD
プログラム**

ランチョンセミナー1～9
共催シンポジウム
共催市民公開講座

阿波

ランチオンセミナー 1

7月5日(金) 11:40 ~ 12:40

あわぎんホール 第1会場(1F ホール)

LS1 うつ病と発達障害

座長 樋口 輝彦 一般社団法人日本うつ病センター / 国立精神・神経医療研究センター

演者 岩波 明 昭和大学医学部精神医学講座

共催 武田薬品工業株式会社 / ルンドバック・ジャパン株式会社

ランチオンセミナー 2

7月5日(金) 11:40 ~ 12:40

あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

LS2 悲哀、うつ、うつ病：進化心理学の視点

座長 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

演者 神庭 重信 九州大学 名誉教授 / 一般社団法人日本うつ病センター (JDC) / 栗山会飯田病院

共催 日本イーライリリー株式会社 / 塩野義製薬株式会社

ランチオンセミナー 3

7月5日(金) 11:40 ~ 12:40

あわぎんホール 第3会場(4F 会議室 2 ~ 4)

LS3 うつ病症状の世代間格差と時代的变化

座長 五十嵐 良雄 医療法人社団雄仁会

演者 徳永 雄一郎 不知火病院

共催 持田製薬株式会社 / 田辺三菱製薬株式会社 / 吉富薬品株式会社

ランチオンセミナー 4

7月5日(金) 11:40 ~ 12:40

あわぎんホール 第4会場(5F 小ホール)

LS4 うつ病の不眠を考える

座長 石郷岡 純 CNS薬理研究所

演者 井上 雄一 東京医科大学睡眠学講座 / 睡眠総合ケアクリニック代々木

共催 アステラス製薬株式会社

ランチオンセミナー 5

7月5日(金) 11:40 ~ 12:40 あわぎんホール 第5会場(5F 会議室6)

LS5 【第一部】日本発のうつ病研究データを眺めてみる
【第二部】うつ病研究の新しいアプローチ

座 長 白川 治 近畿大学医学部精神神経科学教室

演 者 内田 裕之 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

共 催 Meiji Seika ファルマ株式会社

ランチオンセミナー 6

7月6日(土) 12:00 ~ 13:00 あわぎんホール 第1会場(1F ホール)

LS6 治療抵抗性抑うつに外来診療でできること。社会復帰を目指した診断と治療

座 長 上野 修一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学

演 者 加藤 正樹 関西医科大学精神神経科学講座

共 催 大塚製薬株式会社

ランチオンセミナー 7

7月6日(土) 12:00 ~ 13:00 あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

LS7 双極性障害の適切な診断と治療戦略

座 長 中川 伸 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

演 者 田中 輝明 KKR 札幌医療センター精神科

共 催 大日本住友製薬株式会社 メディカルアフェアーズ部

ランチオンセミナー 8

7月6日(土) 12:00 ~ 13:00 あわぎんホール 第3会場(4F 会議室2~4)

LS8 注意欠如・多動症(ADHD)の診断が意味するものを考える

座 長 樋口 輝彦 一般社団法人日本うつ病センター / 国立精神・神経医療研究センター

演 者 尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

共 催 ヤンセンファーマ株式会社 メディカルアフェアーズ本部

ランチオンセミナー 9

7月6日(土) 12:00～13:00

あわぎんホール 第4会場(5F 小ホール)

LS9 双極性障害に対するエビデンスに基づいた薬物治療

座長 井上 猛 東京医科大学精神医学分野

演者 岸 太郎 藤田医科大学医学部精神神経科学講座

共催 共和薬品工業株式会社 / 吉富薬品株式会社

共催シンポジウム

7月6日(土) 9:15 ~ 11:15

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

COS うつ病における脳画像の現状と展望

座長

尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
井上 猛 東京医科大学精神医学分野

COS-1 うつ病に対する認知行動療法の治療機序の解明へ： 脳機能画像アプローチによる取り組み

中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター / 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

COS-2 PET研究から見たうつ病の治療標的としてのセロトニン・ノルアドレナリン トランスポーター

須原 哲也 量子科学技術研究開発機構量子生命科学領域

COS-3 脳画像データベースとニューロフィードバックの現状と展望

川人 光男 ATR脳情報通信総合研究所

共催

ファイザー株式会社 / 大日本住友製薬株式会社

共催市民公開講座

7月6日(土) 14:40～16:40

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

COL 第16回日本うつ病学会総会 / 第21回JDC市民公開講座 うつ病の理解と対応

共 催 日本うつ病学会 / 一般社団法人日本うつ病センター (JDC) /
塩野義製薬株式会社 / 日本イーライリリー株式会社

後 援 徳島県医師会、徳島県精神神経科診療所協会、徳島県精神保健福祉協会、
徳島県臨床心理士会、一般社団法人 徳島県精神科病院協会、
一般社団法人 徳島県薬剤師会、公益社団法人 徳島県看護協会

【趣旨・狙い】

うつ病を含む気分障害と診断された人は、約20年前に比べると約2.5倍に増加し、100万人程度と報告されています。また、WHOの報告でも、2030年にはうつ病が、DALYsの健康な生活を障害する疾患・外傷の第1位になると予測されているなど、うつ病に関する関心は年々高まっています。しかしながら、早期にうつ病に気付く事は難しく、精神科や心療内科などを適切なタイミングで受診できないまま過ごされている人もまだまだ多いことが推察されます。本講座では、うつ病に関する理解を深めるとともに、周囲の方々が当事者の皆様に対してどのようなサポートができるのかをご一緒に考える機会にしたいと思っております。

司 会 [講演1] 樋口 輝彦 一般社団法人日本うつ病センター (JDC) 名誉理事長 /
国立精神・神経医療研究センター 名誉理事長
[講演2] 大森 哲郎 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野

<プログラム>

開会挨拶・総司会 大森 哲郎 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野

【講演1】

COL-1 うつ病で気をつけたいこと
三村 将 日本うつ病学会 理事長 / 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

【講演2】

COL-2 うつ受診率が高い町の特徴とは
岡 檀 情報・システム研究機構統計数理研究所医療健康データ科学研究センター

COL-3 うつ病が教えてくれたこと
音無 美紀子 女優

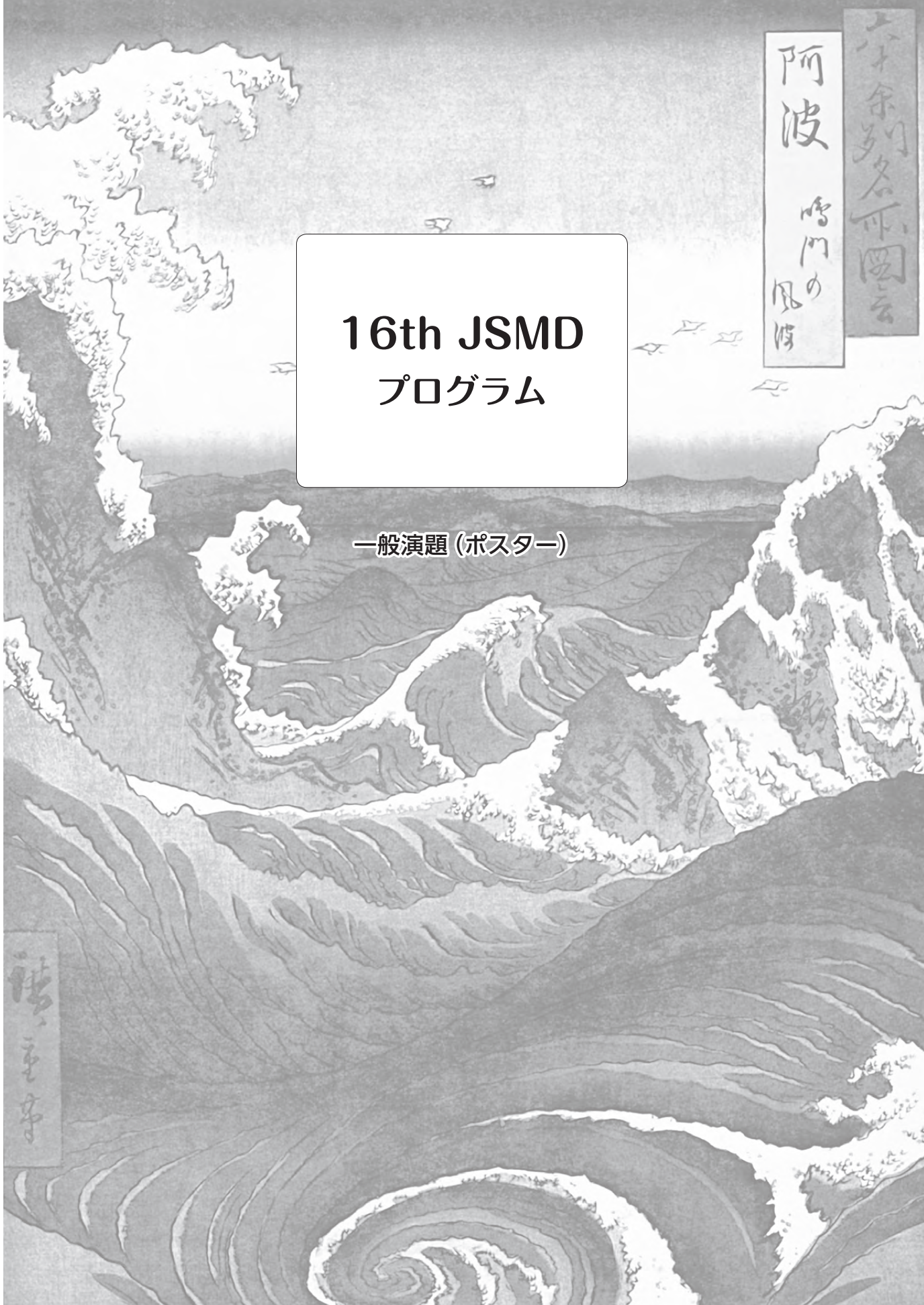
閉会挨拶 樋口 輝彦 一般社団法人日本うつ病センター (JDC) 名誉理事長 /
国立精神・神経医療研究センター 名誉理事長

入 場 料 無料

定 員 800名

参加希望の方へのご案内

この市民公開講座は一般市民の方を対象にしております。
第16回日本うつ病学会総会のプログラムの一つでもありますが、一般市民の方の参加を優先いたします。
第16回日本うつ病学会総会参加者の方には恐縮ですが、入場を制限させていただきます。
7月5日(金) 8:15～総合受付にて市民公開講座参加を希望する方、先着30名様に市民公開講座入場券をお配りいたします。ご希望の方は総合受付にてお受取りください。
30名に達した時点で締切らせていただきますのであらかじめご了承くださいようお願い申し上げます。



六十余の名山可圖を

阿波 鳴門の
風波

16th JSMD
プログラム

一般演題 (ポスター)

法
華
宗

1. 薬物療法 I : 双極性障害

7月5日(金) 17:40 ~ 18:40

あわぎんホール ポスター会場 (3F 大展示室)

座長: 寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

P-1

(研究発表)

ルラシドンの抑うつエピソードを伴う双極 I 型障害患者を対象とした 検証的試験 (ELEVATE 試験) の成績 (有効性)

加藤 忠史¹⁾、石郷岡 純²⁾、渡部 恵³⁾、宮島 真理⁴⁾、増田 孝裕⁵⁾、樋口 輝彦^{6,7)}

- 1) 理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム、2) CNS 薬理研究所、
- 3) 大日本住友製薬株式会社データサイエンス部、4) 大日本住友製薬株式会社臨床企画部、
- 5) 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部、6) 日本うつ病センター、
- 7) 国立精神・神経医療研究センター

P-2

(研究発表)

ルラシドンの抑うつエピソードを伴う双極 I 型障害患者を対象とした 検証的試験 (ELEVATE 試験) の成績 (安全性/忍容性)

樋口 輝彦^{1,2)}、石郷岡 純³⁾、渡部 恵⁴⁾、宮島 真理⁵⁾、増田 孝裕⁶⁾、加藤 忠史⁷⁾

- 1) 日本うつ病センター、2) 国立精神・神経医療研究センター、3) CNS 薬理研究所、
- 4) 大日本住友製薬株式会社データサイエンス部、5) 大日本住友製薬株式会社臨床企画部、
- 6) 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部、
- 7) 理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム

P-3

(研究発表)

ルラシドンの抑うつエピソードを伴う双極 I 型障害患者を対象とした 長期投与試験 (ELEVATE 継続投与試験) の成績

石郷岡 純¹⁾、樋口 輝彦^{2,3)}、宮島 真理⁴⁾、渡部 恵⁵⁾、増田 孝裕⁶⁾、加藤 忠史⁷⁾

- 1) CNS 薬理研究所、2) 日本うつ病センター、3) 国立精神・神経医療研究センター、
- 4) 大日本住友製薬株式会社臨床企画部、5) 大日本住友製薬株式会社データサイエンス部、
- 6) 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部、
- 7) 理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム

P-4

(研究発表)

双極性障害うつ症状に対する抗精神病薬単剤療法と併用療法の有効性: 系統的レビューとメタ解析

野坂 忠史¹⁾、萩 勝彦¹⁾、Andrei Pikalov²⁾、Antony Loebel²⁾

- 1) 大日本住友製薬メディカルアフェアーズ部、2) Sunovion Pharmaceuticals, Inc.

P-5

(研究発表)

双極性障害うつ症状に対する抗精神病薬単剤療法と併用療法の安全性・ 忍容性: 系統的レビューとメタ解析

野坂 忠史¹⁾、萩 勝彦¹⁾、Andrei Pikalov²⁾、Antony Loebel²⁾

- 1) 大日本住友製薬メディカルアフェアーズ部、2) Sunovion Pharmaceuticals, Inc.

2. 薬物療法Ⅱ：双極性障害とうつ病

7月5日(金) 17:40～18:40

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：金沢 徹文 大阪医科大学神経精神医学教室

P-6

(研究発表)

双極性うつ病におけるラモトリギン治療反応性と精神病症状の既往との関連

廣瀬 智之、辻井 農垂、三川 和歌子、細見 史治、森本 拓頌、柳 雅也、白川 治
近畿大学病院メンタルヘルス科

P-7

(実践発表)

薬剤の適正化使用におけるクエチアピン徐放錠の役割 ～ MARTA の特性を活かした実践的処方～

藤田 雅也
医療法人社団城東桐和会 篠崎駅前こここクリニック

P-8

(研究発表)

双極性障害患者におけるベンゾジアゼピン受容体作動薬が多剤化する因子についての解析

坪井 貴嗣、五十嵐 俊、渡邊 衡一郎
杏林大学医学部精神神経科学教室

P-9

(研究発表)

うつ病におけるベンゾジアゼピン系抗不安薬・睡眠薬の減量化が認知機能に及ぼす影響の予備的研究

越川 陽介、加藤 正樹、三井 浩、青木 宣篤、内藤 みなみ、木下 利彦
関西医科大学精神神経科学教室

P-10

(研究発表)

パーソナリティに基づく抗うつ薬の使い分けは可能か？ ～ GUNDAM study より～

内藤 みなみ¹⁾、越川 陽介¹⁾、坂井 志帆¹⁾、板東 宏樹²⁾、嶽北 佳輝¹⁾、西田 圭一郎¹⁾、
砂田 尚孝¹⁾、緒方 治彦^{1,2)}、木下 利彦¹⁾、加藤 正樹¹⁾
1) 関西医科大学総合医療センター精神神経科学講座、2) セフィロト病院

3. 薬物療法Ⅲ：うつ病

7月6日(土) 11:20～11:55

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：加藤 隆弘 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

P-11

(研究発表)

Vortioxetine の大うつ病性障害患者を対象とした国内第3相無作為化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験

井上 猛¹⁾、笹井 清史²⁾、北川 忠行²⁾、西村 章²⁾、稲田 勲²⁾
1) 東京医科大学 精神医学分野、2) 武田薬品工業株式会社

P-12

(研究発表)

幼少期の虐待の既往とうつ病の治療反応性の相関 ～ GUNDAM study より～

緒方 治彦¹⁾、船槻 紀也¹⁾、越川 陽介¹⁾、嶽北 佳輝¹⁾、砂田 尚孝¹⁾、西田 圭一郎¹⁾、
板東 宏樹²⁾、畑下 嘉之²⁾、木下 利彦¹⁾、加藤 正樹¹⁾
1) 関西医科大学総合医療センター 精神神経科教室、2) 社会福祉法人青祥会セフィロト病院

P-13 **SSRI 抵抗性うつ病に対するミルナシプランの効果予測因子として血漿ホモバニリン酸の果たす可能性の検討**

(研究発表)

橋本 佐^{1,2)}、櫻井 大路²⁾、伊豫 雅臣²⁾

1) 袖ヶ浦さつき台病院、2) 千葉大学大学院医学研究院精神医学教室

P-14 **エシタロプラムおよびデュロキセチン各 100 症例の検討—特にノルアドレナリンの関与の視点から—**

(実践発表)

古沢 信之

こころのクリニック山形

4. 薬物療法以外の治療法 I : ECT と rTMS

7月5日(金) 17:40 ~ 18:40

あわぎんホール ポスター会場 (3F 大展示室)

座長：竹林 実 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座

P-15 **入院患者における mECT の治療実績と有効性に関する調査**

(研究発表)

宮保 嘉津真、染村 宏法、石川 文徳、常岡 俊昭、真田 建史、岩波 明

昭和大学医学部精神医学講座

P-16 **気分障害を対象とした修正型電気けいれん療法前後における MRI 画像変化に関する検討**

(研究発表)

野口 佳那、成田 耕介、末積 麻衣

湘南東部総合病院

P-17 **機械学習による MRI を用いた電気けいれん療法に対する個別の治療反応予測**

(研究発表)

高宮 彰紘^{1,2)}、澤田 恭助¹⁾、岸本 泰士郎¹⁾、三村 将¹⁾

1) 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、2) 精神医学・行動科学研究所

P-18 **緊張病症状を呈した Parkinson 病者に修正型電気痙攣療法が奏効した一例**

(実践発表)

仲地 究、尾崎 優樹、清水 秀明、伊賀 淳一、上野 修一

愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

P-19 **反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) 療法中、カフェイン摂取による運動閾値低下の可能性が疑われた一例**

(実践発表)

山崎 龍一、鬼頭 伸輔、市川 光、松田 勇紀、繁田 雅弘

東京慈恵会医科大学

5. 薬物療法以外の治療法Ⅱ：心理社会的介入

7月6日(土) 11:20～11:55

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：上村 直人 高知大学医学部精神科

P-20

(実践発表)

ストレスケア病棟における医師の役割とカンファレンス

小柳 綾¹⁾、島松 まゆみ¹⁾、高田 和秀¹⁾、久保 敏弘¹⁾、松下 満彦¹⁾、徳永 雄一郎¹⁾、
後藤 玲央²⁾

1) 不知火病院、2) 福岡大学医学部精神医学教室

P-21

(実践発表)

作業療法導入時における効果的な介入の検討 ～受動的に参加可能なプログラムを通して～

赤松 まど香

あさかホスピタル

P-22

(研究発表)

うつ病再発予防教室参加者の世代別特徴について

古川 はるこ¹⁾、小川 佳那¹⁾、中西 玲佳¹⁾、亀山 洋¹⁾、常泉 百合²⁾、岡部 究¹⁾、
岩下 正幸¹⁾、川上 正憲³⁾、眞鍋 貴子³⁾、伊藤 達彦²⁾、忽滑谷 和孝¹⁾、繁田 雅弘²⁾

1) 東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科、2) 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科、
3) 香川大学医学部附属病院精神科神経科

P-23

(研究発表)

双極性障害の集団心理教育プログラムにおける12か月後のQOLに与える影響

中津 啓吾、浅岡 聡、岡崎 智行

草津病院

6. 病態・症状・診断・評価Ⅰ：画像とデータ解析

7月5日(金) 17:40～18:40

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：橋本 直樹 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

P-24

(研究発表)

fMRI情報に基づいた背外側前頭前野のNIRSニューロフィードバック法の開発

横山 仁史¹⁾、東田 太一²⁾、岡田 剛¹⁾、市川 奈穂¹⁾、高村 真広¹⁾、柴崎 千代¹⁾、
吉野 敦雄¹⁾、山脇 成人¹⁾、岡本 泰昌¹⁾

1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科、2) 広島大学医学部

P-25

(研究発表)

うつ病の前頭極と線条体におけるドパミントランスポーターの変化： 死後脳研究

関口 裕孝¹⁾、Geoff Pavey²⁾、Brian Dean²⁾

1) 桶狭間病院藤田こころケアセンター、

2) The Florey Institute of Neuroscience and Mental Health, Australia

P-26

(研究発表)

うつ病の安静時脳機能結合の抗うつ薬治療による変化

市川 奈穂、岡田 剛、高村 真広、吉野 敦雄、柴崎 千代、増田 慶一、横山 仁史、
加藤 美幸、山脇 成人、岡本 泰昌
広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医科学

P-27

(研究発表)

うつ病における発話データの臨床的有用性の検討： システマティックレビューとメタ解析

澤田 恭助^{1,2)}、高宮 彰紘¹⁾、三村 将¹⁾、岸本 泰士郎¹⁾
1) 慶應義塾大学病院 精神神経科学教室、2) 社会医療法人 あさかホスピタル

P-28

(研究発表)

深層学習を用いた表情データによるうつ症状の重症度判定の試み

鶴嶋 史哉¹⁾、菊地 俊暁²⁾、吉村 道孝²⁾、Liang Kuo-Ching^{2,3)}、北沢 桃子²⁾、
三村 将²⁾、岸本 泰士郎²⁾
1) 慶應義塾大学医学部、2) 慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室、3) 慶應義塾大学理工学部

P-29

(研究発表)

個人に最適化されたうつ病再発兆候の早期発見技術の開発 —心理・社会・生物学的データに対する機械学習法の適用—

山本 哲也¹⁾、吉本 潤一郎²⁾
1) 徳島大学大学院社会産業理工学研究部、2) 奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科

7. 病態・症状・診断・評価Ⅱ：分子医学

7月5日(金) 17:40～18:40

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：森信 繁 吉備国際大学医療保健福祉学部作業療法学科

P-30

(研究発表)

うつ病 GWAS の歴史的変遷

西澤 由貴、丸山 惣一郎、金沢 徹文
大阪医科大学神経精神医学教室

P-31

(研究発表)

オリゴデンドロサイト関連遺伝子多型 (rs1059004) と自己スキーマ及び抑うつ症状との相関研究

小松 浩^{1,2)}、竹内 光³⁾、菊地 淑恵¹⁰⁾、小野 千晶¹⁰⁾、齋 志前^{2,10)}、飯塚 邦夫⁷⁾、
角藤 芳久¹⁾、船越 俊一^{1,4)}、大野 高志¹⁾、川島 隆太^{3,5,9)}、瀧 靖之^{5,6,8)}、
富田 博秋^{2,6,7,10)}

1) 宮城県立精神医療センター、2) 東北大学大学院医学系研究科 災害精神医学分野、
3) 東北大学 加齢医学研究所 認知機能発達寄附研究部門、
4) 東北大学大学院医学系研究科 地域精神医療分野、
5) 東北大学 スマート・エイジング学術重点研究センター、
6) 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構、
7) 東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野、
8) 東北大学 加齢医学研究所 機能画像医学研究分野、
9) 東北大学 加齢医学研究所 応用脳科学研究分野、
10) 東北大学 災害科学国際研究所 災害精神医学分野

P-32

(研究発表)

mtDNA copy number raises the potential of left frontopolar hemodynamic responses for distinguishing BD from MDD

菱本 明豊¹⁾、辻井 農亜²⁾、大塚 郁夫¹⁾、岡崎 賢志¹⁾、柳 雅也²⁾、沼田 周助³⁾、
山木 愛久¹⁾、川久保 善宏²⁾、白川 治²⁾

1) 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野、2) 近畿大学医学部精神神経科学教室、
3) 徳島大学病院精神科神経科

P-33

(研究発表)

うつ病における Dehydroepiandrosterone (DHEA) が Brain derived neurotrophic factor (BDNF) に与える影響について：第2報

宿澤 弘子、馬場 元、前嶋 仁、島野 嵩久、井上 恵、石島 聡子、石黒 芽意、
市川 朝也、安田 誠太、鈴木 利人、新井 平伊

順天堂大学精神医学講座

P-34

(研究発表)

うつ病患者末梢白血球におけるバイオマーカーとしての長鎖非コード RNA 発現解析

關 友恵、山形 弘隆、内田 周作、小林 正明、原田 健一郎、松尾 幸治、渡邊 義文、
中川 伸

山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

P-35

(研究発表)

うつ病患者における養育環境の DNA メチル化修飾への影響の検討

梅原 英裕¹⁾、戸田 裕之²⁾、斎藤 拓²⁾、中瀧 理仁¹⁾、沼田 周助¹⁾、大森 哲郎¹⁾

1) 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野、2) 防衛医科大学校精神科学講座

8. 病態・症状・診断・評価Ⅲ：バイオマーカー

7月5日(金) 17:40～18:40

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：山形 弘隆 山口大学医学部附属病院精神科神経科

P-36

(研究発表)

気分障害のバイオマーカーとしての血清中グリア細胞株由来神経栄養因子 (GDNF) に関する多施設共同研究

井手本 啓太¹⁾、新津 富央¹⁾、畑 達記¹⁾、小田 靖典¹⁾、木村 敦史¹⁾、橋本 佐¹⁾、
亀野 陽亮²⁾、蓬萊 政³⁾、山森 英長^{4,5,6)}、戸田 重誠^{7,8)}、菱本 明豊³⁾、橋本 亮太^{4,5)}、
中込 和幸⁹⁾、橋本 謙二¹⁰⁾、伊豫 雅臣^{1,10)}

1) 千葉大学大学院医学研究院精神医学、2) 浜松医科大学医学部精神医学講座、
3) 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野、
4) 大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座精神医学、
5) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、
6) 独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院、7) 金沢大学医薬保健学域医学類精神行動科学、
8) 昭和大学医学部精神医学講座、9) 国立精神・神経医療研究センター病院、
10) 千葉大学社会精神保健教育研究センター病態解析部門

P-37

(研究発表)

interleukin-6 in patients with untreated major depressive disorder: comparison with catecholamine metabolites

吉村 玲児¹⁾、岸 太郎²⁾、香月 あすか¹⁾、井形 亮平¹⁾、小西 勇輝¹⁾、岩田 仲生²⁾

1) 産業医科大学精神医学、2) 藤田医科大学医学部精神医学

P-38

(研究発表)

うつ病における血清アミロイドβタンパクの推移：第2報夏目 俊太郎^{1,2)}、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、島野 高久^{1,2)}、市川 朝也¹⁾、安田 誠太¹⁾、宿澤 弘子^{1,2)}、済田 貴生¹⁾、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}

1) 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学、

2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院, Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP)

P-39

(研究発表)

うつ病の寛解後のアミロイドβ濃度と認知症発症のリスクに関するコホート調査

安田 誠太、馬場 元、前嶋 仁、島野 高久、井上 恵、市川 朝也、宿澤 弘子、夏目 俊太郎、済田 貴生、鈴木 利人、新井 平伊

順天堂大学医学部精神医学教室, Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP)

P-40

(研究発表)

うつ病寛解後の血清BDNF濃度と認知症発症のリスクに関する縦断的調査済田 貴生^{1,2)}、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、島野 高久^{1,2)}、市川 朝也^{1,2)}、安田 誠太^{1,2)}、宿澤 弘子^{1,2)}、夏目 俊太郎^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊¹⁾

1) 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学、

2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP)

P-41

(研究発表)

うつ病患者の血清TDP-43濃度と寛解時の遂行機能および記憶機能との関連性市川 朝也¹⁾、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁¹⁾、島野 高久¹⁾、井上 恵¹⁾、安田 誠太^{1,2)}、宿澤 弘子^{1,2)}、済田 貴生^{1,2)}、夏目 俊太郎^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}

1) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 Juntendo University Mood Disorder Project、

2) 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学

9. 病態・症状・診断・評価Ⅳ：症状評価

7月5日(金) 17:40～18:40

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：高江洲 義和 杏林大学医学部精神神経科学教室

P-42

(研究発表)

ドライアイ患者におけるうつ症状および不安症状に関する観察研究北沢 桃子^{1,2)}、山田 千晶¹⁾、吉村 道孝^{1,2,3)}、川島 素子²⁾、井上 佐智子²⁾、三村 将¹⁾、坪田 一男²⁾、根岸 一乃²⁾、岸本 泰士郎¹⁾

1) 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、2) 慶應義塾大学医学部眼科学教室、

3) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部

P-43

(研究発表)

うつ病・不安症患者の抑うつ重症度と消化器症状の関連—腸内細菌叢の横断的検討—黒川 駿哉¹⁾、富沢 佳弘²⁾、石井 大喜²⁾、宮保 嘉津真³⁾、真田 健史³⁾、福田 真嗣⁴⁾、三村 将¹⁾、岸本 泰士郎¹⁾

1) 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、2) 慶應義塾大学薬学部薬物治療学講座、

3) 昭和大学医学部精神医学講座、4) 慶應義塾大学先端生命科学研究所

P-44

(研究発表)

認知症精査入院患者における患者情報と抑うつとの関連

津山 雄亮¹⁾、林 綾子^{1,2)}、岩本 倫¹⁾、牧野 愛恵¹⁾、松山 清治¹⁾、村山 友則¹⁾、白石 将毅¹⁾、河西 千秋¹⁾

- 1) 札幌医科大学医学部神経精神医学講座、
2) 札幌医科大学医学部附属フロンティア医学研究所再生治療推進講座

P-45

(研究発表)

寛解期うつ病患者における残遺する抑うつの自覚症状についての検討

三川 和歌子、辻井 農垂、安達 融、廣瀬 智之、白川 治
近畿大学医学部精神神経科

P-46

(研究発表)

日本語版 CORE 尺度の作成と信頼性および妥当性の検討

玉田 有^{1,2)}、井上 猛²⁾、関根 篤³⁾、戸田 裕之⁴⁾、武島 稔^{2,5)}、佐々木 雅明⁶⁾、大前 晋⁶⁾

- 1) 虎の門病院分院精神科、2) 東京医科大学精神医学分野、3) ケイメンタルクリニック、
4) 防衛医科大学校精神科学講座、5) 柴田病院、6) 虎の門病院精神科

P-47

(研究発表)

「現代抑うつ症候群」(いわゆる「現代型うつ」「新型うつ」)の病前性格：22項目の自記式評価尺度(TACS-22)の開発

香月 亮子¹⁾、久保 浩明¹⁾、桑野 信貴¹⁾、瀬戸山 大樹²⁾、康 東天²⁾、渡部 幹³⁾、坂本 真士⁴⁾、Teo Alan R.^{5,6,7)}、神庭 重信¹⁾、加藤 隆弘¹⁾

- 1) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学、2) 九州大学大学院医学研究院臨床検査医学、
3) School of Business, Monash University, Jalan Lagoon Selatan, Bandar Sunway, Selangor Darul Ehsan, Malaysia、
4) 日本大学文理学部心理学科、
5) VA Portland Health Care System, HSR&D Center to Improve Veteran Involvement in Care, Portland, USA、
6) Department of Psychiatry, Oregon Health & Science University, Portland, USA、
7) School of Public Health, Oregon Health & Science University and Portland State University, Portland, USA

10. 病態・症状・診断・評価Ⅴ：不安と抑うつ

7月6日(土) 11:20～11:55

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：岩田 正明 鳥取大学医学部脳神経医学講座精神行動医学分野

P-48

(研究発表)

初診患者における不安・抑うつ発作の有病率の検討

松元 智美¹⁾、正木 美奈²⁾、小松 智賀¹⁾、野口 恭子¹⁾、川崎 奈緒子¹⁾、岸野 有里¹⁾、貝谷 久宣^{1,3)}

- 1) 心療内科・神経科赤坂クリニック、2) なごやメンタルクリニック、3) パニック症研究センター

P-49

(研究発表)

不安・抑うつ発作における侵入性思考

正木 美奈¹⁾、貝谷 久宣²⁾、岸本 智数¹⁾

- 1) なごやメンタルクリニック、2) パニック症研究センター

P-50

(研究発表)

主観的健康感に及ぼす小児期の被養育体験、特性不安、ライフイベントの相互作用の検討

中島 淳^{1,2)}、片山 成仁^{1,2)}、内田 由寛²⁾、井上 猛²⁾

- 1) 成仁病院、2) 東京医科大学精神医学分野

P-51

(研究発表)

小児期にいじめられた体験が成人期のうつ症状に与える影響： 重回帰分析による解析

石井 義隆、榎屋 二郎、成瀬 麻夕、井上 猛
東京医科大学病院メンタルヘルス科

P-52

(研究発表)

小児期虐待、特性不安が反芻に及ぼす影響：重回帰分析による解析

出口 彩香、成瀬 麻夕、市来 真彦、井上 猛
東京医科大学病院メンタルヘルス科

11. 病態・症状・診断・評価Ⅵ：睡眠、生理、認知

7月6日(土) 11:20～11:55

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：鈴木 正泰 日本大学医学部精神医学系

P-53

(研究発表)

大うつ病性障害における眼球運動

高橋 潤一¹⁾、三浦 健一郎²⁾、森田 健太郎³⁾、藤本 美智子⁴⁾、山森 英長⁴⁾、安田 由華⁴⁾、
工藤 紀子⁴⁾、穴戸 恵美子⁵⁾、岡崎 康輔⁶⁾、椎野 智子^{5,7)}、笠井 清登³⁾、平野 羊嗣¹⁾、
橋本 亮太^{4,7)}、鬼塚 俊明¹⁾

1) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学、2) 京都大学大学院医学研究科認知行動脳科学、
3) 東京大学大学院医学系研究科精神医学、4) 大阪大学大学院医学研究科精神医学、
5) 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学、6) 奈良県立医科大学精神医学講座、
7) 国立精神・神経センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

P-54

(研究発表)

ウェアラブル活動量計を用いた睡眠リズムとうつ症状との関連

吉村 道孝¹⁾、北沢 桃子¹⁾、Brian Sumali^{1,2)}、田澤 雄基¹⁾、貝瀬 有里子¹⁾、三村 将¹⁾、
岸本 泰士郎¹⁾

1) 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、2) 慶應義塾大学理工学研究科総合デザイン工学専攻

P-55

(研究発表)

夜型傾向は直接ではなく睡眠の問題を介して学生のうつ症状を引き起こす

志村 哲祥^{1,2)}、井上 猛¹⁾

1) 東京医科大学精神医学分野、2) 医療法人寿鶴会菅野病院精神科・睡眠外来

P-56

(研究発表)

精神疾患における認知機能障害と社会活動時間との関連

宇野 洋太¹⁾、工藤 紀子¹⁾、山森 英長^{1,2,3)}、藤野 陽生⁴⁾、住吉 チカ⁵⁾、安田 由華⁶⁾、藤本 美智子⁷⁾、勝元 榮一⁸⁾、佐田 あゆ美⁹⁾、畦地 裕統¹⁾、椎野 智子¹⁾、嶋田 貴充¹⁰⁾、片岡 譲¹⁰⁾、高橋 潤一¹¹⁾、森田 健太郎¹²⁾、香月 あすか¹³⁾、山本 真江里¹⁴⁾、岡久 祐子¹⁵⁾、肥田 道彦¹⁶⁾、平野 羊嗣¹¹⁾、牧之段 学¹⁷⁾、中瀧 理仁¹⁸⁾、橋本 直樹¹⁹⁾、大井 一高^{10,20)}、高橋 努²¹⁾、根本 清貴²²⁾、岸本 年史¹⁷⁾、鈴木 道雄²¹⁾、住吉 太幹²³⁾、橋本 亮太¹⁾

- 1) 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神疾患病態研究部、
- 2) 独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院、
- 3) 大阪大学大学院 医学系研究科 情報統合医学講座 精神医学教室、4) 大分大学 教育学部、
- 5) 福島大学人間発達文化学類、6) 医療法人フォスター 生きる・育む・輝くメンタルクリニック、
- 7) 大阪大学大学院医学系研究科 情報統合医学講座 精神医学教室、8) かつもとメンタルクリニック、
- 9) くぎぬき医院、10) 金沢医科大学 精神神経科学、11) 九州大学大学院医学研究院 精神病態医学
- 12) 東京大学大学院医学系研究科 精神医学分野、13) 産業医科大学精神医学教室、
- 14) 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、15) 岡山大学病院精神科神経科、
- 16) 日本医科大学大学院医学系研究科 精神・行動医学、17) 奈良県立医科大学精神医学講座、
- 18) 徳島大学病院 精神科神経科、19) 北海道大学大学院医学研究院 神経病態学分野精神医学教室、
- 20) 金沢医科大学 総合医学研究所、21) 富山大学大学院医学薬学研究部 神経精神医学講座、
- 22) 筑波大学附属病院精神神経科、
- 23) 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・予防精神医学研究部

12. 病態・症状・診断・評価Ⅶ：経過と転帰

7月6日(土) 11:20～11:55

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：鈴木 利人 順天堂大学医学部附属越谷病院メンタルクリニック

P-57

(研究発表)

うつ病の治療経過と症状の変化から、早期介入を考える

徳永 雄一郎¹⁾、奥村 幸祐¹⁾、島松 まゆみ¹⁾、高田 和秀¹⁾、小柳 綾¹⁾、松下 満彦¹⁾、後藤 玲央^{1,2)}、川崎 弘詔²⁾

- 1) 不知火病院、2) 福岡大学医学部精神医学教室

P-58

(研究発表)

臨床経過中にうつ病から双極性障害へ診断変更になった患者の転帰調査

本多 笑奈¹⁾、福本 健太郎¹⁾、三條 克巳¹⁾、岩城 忍²⁾、小泉 文人¹⁾、小泉 範高¹⁾、遠藤 仁^{1,3)}、山家 健仁¹⁾、大塚 耕太郎^{1,3)}

- 1) 岩手医科大学医学部神経精神科学講座、2) 盛岡市立病院神経精神科、
- 3) 岩手医科大学医学部災害・地域精神医学講座

P-59

(研究発表)

不安性の苦痛(DSM-5)の有無による大うつ病性障害の6ヵ月転帰予測

大坪 天平¹⁾、外間 朝諒¹⁾、村尾 朋彦¹⁾、佐野 奈々²⁾、高橋 杏子²⁾、佐々木 和音³⁾、渡部 芳徳⁴⁾、菊地 俊暁⁵⁾、田中 克俊⁶⁾

- 1) 東京女子医科大学東医療センター精神科、2) JCHO東京新宿メディカルセンター精神科、
- 3) 江田記念病院、4) 市ヶ谷ひもろぎクリニック、5) 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、
- 6) 北里大学大学院産業精神保健学教室

P-60

(研究発表)

Preliminary observational outcomes from OpTiMA1 study - optimizing treatments in mood and anxiety disorders.

アリスター 真弥¹⁾、フィゲロア エドアルド¹⁾、キセイン アンドリュー¹⁾、
トランター リチャード^{2,3)}

- 1) American Clinic Tokyo、2) ニューージーランド、クライストチャーチ、オタゴ大学心理医学科、
3) ミッドノースコースト地域の保健地区メンタルヘルスサービス、ニューサウスウェールズ、オーストラリア

13. ライフサイクルとうつ病

7月6日(土) 11:20～11:55

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：市来 真彦 東京医科大学精神医学分野

P-61

(研究発表)

日本人女性の周産期うつ病の有病割合：メタアナリシス

徳満 敬大¹⁾、菅原 典夫²⁾、丸尾 和司³⁾、鈴木 利人⁴⁾、古郡 規雄⁵⁾

- 1) 十和田市立中央病院メンタルヘルス科、
2) 国立精神神経医療研究センタートランスレーショナルメディカルセンター、
3) 筑波大学医学医療系臨床試験臨床疫学研究室、
4) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック、
5) 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

P-62

(研究発表)

日本人男性の周産期うつ病の有病割合：メタアナリシス

徳満 敬大¹⁾、菅原 典夫²⁾、丸尾 和司³⁾、鈴木 利人⁴⁾、古郡 規雄⁵⁾

- 1) 十和田市立中央病院メンタルヘルス科、
2) 国立精神神経医療研究センタートランスレーショナルメディカルセンター、
3) 筑波大学医学医療系臨床試験臨床疫学研究室、
4) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック、
5) 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

P-63

(研究発表)

若年女性における月経前症候群と気質・性格との関連

三浦 淳、秋元 麻菜、赤繁 初音、山 佳織、町田 麻依子
北海道科学大学薬学部

P-64

(実践発表)

徳島県における産後うつ対策の実践

中瀧 理仁¹⁾、後藤 さおり²⁾、上田 美香²⁾、加地 剛²⁾、苛原 稔²⁾、大森 哲郎¹⁾

- 1) 徳島大学病院精神科神経科、2) 徳島大学病院産婦人科

14. 自殺予防

7月5日(金) 17:40～18:40

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：山田 光彦 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部

P-65

(研究発表)

川崎市自殺未遂者支援地域連携モデル構築事業の紹介

伊藤 滋朗¹⁾、岸 泰宏¹⁾、上原 嘉子¹⁾、張 賢徳²⁾、高井 美智子³⁾、倉本 哲義⁴⁾、
島田 和代⁵⁾、小林 聡美⁶⁾、野木 珠美⁶⁾、小泉 朋子⁷⁾、竹田 博子⁷⁾、竹島 正⁸⁾、
津田 多佳子⁸⁾、植木 美津枝⁸⁾、大塚 俊弘⁸⁾

1) 日本医科大学武蔵小杉病院精神科、2) 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科、
3) 埼玉医科大学病院救命救急センター、4) 中原区役所地域みまもり支援センター、
5) 高津区役所地域みまもり支援センター、6) 宮前区役所地域みまもり支援センター、
7) 川崎市井田障害者センター、8) 川崎市精神保健福祉センター

P-66

(研究発表)

自殺企図事例における総合病院救命救急科と単科精神病院の連携について

坂田 幹樹¹⁾、本多 義治¹⁾、本多 秀治¹⁾、伊藤 隆¹⁾、山田 圭造¹⁾、篠崎 正博²⁾、
鍛冶 有登²⁾、薬師寺 泰匡²⁾

1) 七山病院、2) 岸和田徳洲会病院

P-67

(研究発表)

「救急患者精神科継続支援料」要件研修受講者の特徴と自殺予防関連尺度の関連についての検討

山田 光彦、川島 義高、米本 直裕

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部

P-68

(実践発表)

非都市部における高齢者のうつ病予防の取組み

今井 正城^{1,2)}、小山 明日香³⁾、西 良知⁴⁾、一木 崇弘³⁾、濱本 世津江⁵⁾、村上 良慈⁶⁾、
藤瀬 昇⁷⁾

1) くまもと心療病院、2) 熊本大学大学院医学部教育部、3) 熊本大学神経精神科、
4) 熊本県立こころの医療センター、5) あさぎり町役場 健康推進課、6) 吉田病院、
7) 熊本大学保健センター

15. カウンセリングと家族への支援

7月6日(土) 11:20～11:55

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：富田 拓郎 中央大学文学部

P-69

(研究発表)

対人関係カウンセリングの大学生の抑うつ状態への効果

竹谷 怜子¹⁾、辻本江美 江美²⁾、山本 亞実²⁾、上田 ひとみ²⁾、坂根 遥²⁾、澤村 勇希²⁾、
川上 卓朗²⁾、寺本 航起²⁾、辻井 農壘³⁾、白川 治³⁾、小野 久江^{1,2)}

1) 関西学院大学文学部総合心理科学科、
2) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域、
3) 近畿大学医学部精神神経科教室

P-70

(研究発表)

ADHD傾向の有無による対人関係カウンセリングの大学生の抑うつ状態への効果

澤村 勇希¹⁾、川上 卓郎¹⁾、寺本 航起¹⁾、上田 ひとみ¹⁾、坂根 遥¹⁾、竹谷 怜子³⁾、
辻井 農垂²⁾、白川 治²⁾、小野 久江^{1,3)}

1) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域、
2) 近畿大学医学部精神神経科学教室、3) 関西学院大学文学部総合心理科学科

P-71

(研究発表)

ASD傾向の有無による対人関係カウンセリングの大学生の抑うつ状態への効果

上田 ひとみ¹⁾、坂根 遥¹⁾、澤村 勇希¹⁾、川上 卓郎¹⁾、寺本 航起¹⁾、竹谷 怜子³⁾、
辻井 農垂²⁾、白川 治²⁾、小野 久江^{1,3)}

1) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域、
2) 近畿大学医学部精神神経科学教室、3) 関西学院大学文学部総合心理科学科心理科学専修

P-72

(研究発表)

うつ病者家族支援におけるICT活用に関する文献レビュー

木村 洋子¹⁾、田嶋 長子²⁾、鈴木 佑典¹⁾

1) 同志社女子大学看護学部、2) 大阪府立大学看護学部

P-73

(研究発表)

認知症に罹患した要介護者の家族介護者における負担感とその寄与要因に関する検討

菅原 典夫¹⁾、丸尾 和司²⁾、古郡 規雄³⁾

1) 国立精神・神経医療研究センター トランスレーショナル・メディカルセンター 情報管理・解析部、
2) 筑波大学医学医療系 臨床試験・臨床疫学研究室、3) 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座

16. 症例検討

7月5日(金) 17:40～18:40

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：忽滑谷 和孝 東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科

P-74

(実践発表)

低用量sulpirideの再評価—再発に奏効した高齢者の2症例

上田 諭

東京医療学院大学保健医療学部

P-75

(実践発表)

電気けいれん療法で改善せず、ノルトリプチリンが奏功した反復性うつ病の2症例

中山 知彦¹⁾、江戸 宏彰¹⁾、吉田 朋広¹⁾、松本 唯¹⁾、渡部 真也²⁾、中瀧 理仁¹⁾、
沼田 周助²⁾、大森 哲郎²⁾

1) 徳島大学病院精神科神経科、2) 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野

P-76

(実践発表)

アタッチメントに焦点を当てた認知行動療法「絆スキル」により回復した治療抵抗性うつ病の一例

工藤 由佳

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

P-77

(実践発表)

成人期注意欠陥・多動性障害に伴ううつ状態に対する鍼治療の1症例

松浦 悠人¹⁾、渡部 芳徳^{1,2)}、古賀 義久^{1,3)}、安野 富美子^{1,3)}、坂井 友実^{1,3)}

- 1) 東京有明医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 鍼灸学分野、
2) 医療法人社団慈泉会 市ヶ谷ひもろぎクリニック、3) 東京有明医療大 保健医療学部 鍼灸学科

P-78

(実践発表)

治療経緯から双極性障害との診断に迷った重症うつ病の一例

三好 幸代、越智 紳一郎、伊藤 亜由美、久門 啓志、曾我 純也、坪内 浩一、安部 賢郎、
吉田 卓、森 崇明、上野 修一

愛媛大学医学部精神神経学講座

P-79

(実践発表)

シゾイドうつ病と統合失調症

松下 満彦^{1,2)}、徳永 雄一郎¹⁾、奥村 幸祐¹⁾、高田 和秀^{1,2)}、川崎 弘詔²⁾

- 1) 不知火病院、2) 福岡大学医学部精神医学教室

17. 産業メンタルヘルス

7月6日(土) 11:20 ~ 11:55

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：新開 隆弘 産業医科大学医学部精神医学教室

P-80

(研究発表)

うつ病等休職者を対象とした「休職中に活用できる社会保障制度」に関する情報提供資料の開発

白川 麻子¹⁾、田島 美幸¹⁾、山田 晴男²⁾、市村 玲子²⁾、香取 美恵子²⁾、深澤 理香²⁾、
濱本 絵美²⁾、安部 眞一²⁾、原田 晶子²⁾、亀谷 康弘²⁾、水上 房子²⁾、木村 幸子²⁾、
谷村 友里恵²⁾、秋山 剛³⁾

- 1) 国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター、
2) 東京都社会保険労務士会武蔵野統括支部、3) NTT 東日本関東病院

P-81

(実践発表)

多動・不注意を考慮した治療的支援

～治療プログラム導入に先立つ目標共有と構造化された行動課題設定の有用性～

竹本 千彰、中村 嘉宏、川嶋 祥樹、内海 浩彦

有馬病院

P-82

(実践発表)

ワークプログラム利用中に発達障害と診断し、治療介入と復職後の環境調整を行った2症例

小山 敦史^{1,2)}

- 1) 産業医科大学医学部精神医学教室、2) 高岡病院

P-83

(実践発表)

うつ病リワーク版、運動療法の実践報告

～復職後の継続を目指した7つの工夫と効果について～

近藤 智

目白大学保健医療学部

18. 治療ガイドライン

7月5日(金) 17:40～18:40

あわぎんホール ポスター会場(3F 大展示室)

座長：古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座

P-84

(研究発表)

日本うつ病学会治療ガイドライン II. 大うつ病性障害
「高齢者のうつ病 ドラフト」 その1：経緯と総論

馬場 元¹⁾、伊賀 淳一²⁾、押淵 英弘³⁾、河野 仁彦⁴⁾、鬼頭 伸輔⁵⁾、木村 真人⁶⁾、
島野 高久¹⁾、武島 稔⁷⁾、忽滑谷 和孝^{5,8)}、藤瀬 昇⁸⁾、前嶋 仁¹⁾、松田 勇紀⁵⁾、
水上 勝義⁹⁾、三村 将¹⁰⁾、山崎 龍一⁵⁾

- 1) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック、
- 2) 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座、3) 東京女子医科大学神経精神科、
- 4) 都城新生病院、5) 東京慈恵会医科大学精神医学講座、
- 6) 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科、7) 明心会柴田病院、8) 熊本大学保健センター、
- 9) 筑波大学大学院人間総合科学研究科、10) 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

P-85

(研究発表)

日本うつ病学会治療ガイドライン II. 大うつ病性障害
「高齢者のうつ病 ドラフト」 その2：各論(前半)

伊賀 淳一¹⁾、押淵 英弘²⁾、河野 仁彦³⁾、鬼頭 伸輔⁴⁾、木村 真人⁵⁾、島野 高久⁶⁾、
武島 稔⁷⁾、忽滑谷 和孝⁴⁾、馬場 元⁶⁾、藤瀬 昇⁸⁾、前嶋 仁⁶⁾、松田 勇紀⁴⁾、
水上 勝義⁹⁾、三村 将¹⁰⁾、山崎 龍一⁴⁾

- 1) 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座、2) 東京女子医科大学神経精神科、
- 3) 都城新生病院、4) 東京慈恵会医科大学精神医学講座、
- 5) 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科、
- 6) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック、7) 明心会柴田病院、
- 8) 熊本大学保健センター、9) 筑波大学大学院人間総合科学研究科、
- 10) 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

P-86

(研究発表)

日本うつ病学会治療ガイドライン II. 大うつ病性障害
「高齢者のうつ病 ドラフト」 その3：各論(後半)

武島 稔¹⁾、伊賀 淳一²⁾、押淵 英弘³⁾、河野 仁彦⁴⁾、鬼頭 伸輔⁵⁾、木村 真人⁶⁾、
島野 高久⁷⁾、忽滑谷 和孝⁵⁾、馬場 元⁷⁾、藤瀬 昇⁸⁾、前嶋 仁⁷⁾、松田 勇紀⁵⁾、
水上 勝義⁹⁾、三村 将¹⁰⁾、山崎 龍一⁵⁾

- 1) 明心会柴田病院、2) 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座、
- 3) 東京女子医科大学神経精神科、4) 都城新生病院、5) 東京慈恵会医科大学精神医学講座、
- 6) 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科、
- 7) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック、8) 熊本大学保健センター、
- 9) 筑波大学大学院人間総合科学研究科、10) 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

P-87

(研究発表)

うつ病治療ガイドライン～精神科作業療法：第1部～

田中 佐千恵¹⁾、香山 明美²⁾、小林 正義¹⁾、杉山 暢宏¹⁾、芳賀 大輔³⁾、早坂 友成⁴⁾

- 1) 信州大学医学部保健学科作業療法学専攻、
- 2) 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻、3) ワンモア豊中、
- 4) 杏林大学保健学部作業法学科

P-88

(研究発表)

うつ病治療ガイドライン～精神科作業療法：第2部～

田中 佐千恵¹⁾、香山 明美²⁾、小林 正義¹⁾、杉山 暢宏¹⁾、芳賀 大輔³⁾、早坂 友成⁴⁾

- 1) 信州大学医学部保健学科、
- 2) 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻、3) ワンモア豊中、
- 4) 杏林大学保健学部作業法学科

P-89

(研究発表)

うつ病に対する治療ガイドライン教育プロジェクト(EGUIDEプロジェクト)の効果-ガイドラインに基づく治療行動達成度からの考察-

山田 恒^{1,2)}、本山 美久仁¹⁾、椎野 智子²⁾、稲田 健³⁾、渡邊 衡一郎⁴⁾、橋本 亮太²⁾、松永 寿人¹⁾

1) 兵庫医科大学精神科神経科学講座、2) 国立精神・神経医療研究センター、3) 東京女子医科大学、4) 杏林大学

六十余の名山可圖を

阿波 鳴門の
風波

16th JSMD プログラム

EGUIDEプロジェクト 精神科医のための双極性障害治療ガイドライン講習会
EGUIDEプロジェクト うつ病治療ガイドライン講習会

法
を
守

EGUIDEプロジェクト 精神科医のための双極性障害治療ガイドライン講習会

7月6日(土) 9:00～16:40

あわぎんホール 第5会場(5F 会議室6)

【趣旨・狙い】

「精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究(EGUIDE)」プロジェクトは2016年に始まり、43大学132もの医療機関が参加し、日本うつ病学会からのうつ病ガイドライン、日本神経精神薬理学会からの統合失調症薬物治療ガイドラインについての講習会を全国で開催しています。

これまでEGUIDEプロジェクトでは、うつ病と統合失調症について取り扱って来ましたが、次第に多くの方々から、診断や見立ても難しく、さらには治療法にも諸説ある双極性障害についてこそ、このような講習会の開催をとの声を多く聞かれるようになりました。

そこで、今回学会期間中に講習会を企画しました。

まず治療計画の策定に始まり、躁病、うつ病相、そして維持治療についてガイドラインの記載内容の紹介に留まらず、どの様に治療を進めていくかの原則やエビデンスについて紹介します。その後、2つの症例を通じて、どのように見立てて治療していくかについて参加者にグループに分かれて議論いただきます。ファシリテーターは我が国を代表する双極性障害の気鋭の研究者、臨床家達です。是非この新しい講習会にご参加いただければ幸いです。

本講習会はパイロット的な講習会となります。本講習会では、参加者の声を受けて講習会内容を今後改変していく性格も有しております。そのため、本講習会は無料でご参加できますが、精神科医の参加を募集しております。

気分障害の治療ガイドライン作成委員会 委員長
渡邊 衡一郎

EGUIDEプロジェクトチーム 代表
橋本 亮太

EGUIDEプロジェクト 双極性障害事務局長
松尾 幸治

第16回日本うつ病学会総会 会長
大森 哲郎

事前申込期間

2019年4月29日(月)～2019年6月22日(土)

講習会要項

日 時：7月6日(土) 9:00～16:40

(昼食・特別講演のため11:50から14:30まで中断)

会 場：第5会場(あわぎんホール 5F 会議室6)

参 加 費：無料

募集人数：36名

※定員になり次第締め切ります。定員に満たない場合のみ、当日申込を受け付けます。

申込方法：事前下記メールアドレスへ連絡してください。

E-mail : psy_jimu@saitama-med.ac.jp

事前申込の際には、大会ホームページより参加申込用紙をダウンロードの上記入し、メール添付にてお送りください。

参加者が事前に準備するもの

「日本うつ病学会治療ガイドライン | 双極性障害 2017」

※日本うつ病学会ホームページに掲載しております。

http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/mood_disorder/

講習会内容

総合司会

松尾 幸治

埼玉医科大学

【午前：講義】

趣旨説明

橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター

治療計画の策定

小笠原 一能 名古屋大学

躁病エピソード

本村 啓介 肥前精神医療センター

抑うつエピソード

田中 輝明 KKR札幌医療センター

維持療法

仁王 進太郎 済生会中央病院

【午前：症例グループディスカッション1】

伊賀 淳一 愛媛大学

小笠原 一能 名古屋大学

高江洲 義和 杏林大学

田中 輝明 KKR札幌医療センター

戸田 裕之 防衛医科大学校

仁王 進太郎 済生会中央病院

橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター

松尾 幸治 埼玉医科大学

本村 啓介 肥前精神医療センター

【午後：症例グループディスカッション2】

小笠原 一能 名古屋大学

高江洲 義和 杏林大学

田中 輝明 KKR札幌医療センター

戸田 裕之 防衛医科大学校

仁王 進太郎 済生会中央病院

橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター

松尾 幸治 埼玉医科大学

本村 啓介 肥前精神医療センター

渡邊 衡一郎 杏林大学

お問い合わせ先

EGUIDEプロジェクト双極性障害 運営事務局

埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

TEL : 049-276-1214 FAX : 049-276-1622

E-mail : psy_jimu@satiamo-med.ac.jp

EGUIDEプロジェクト うつ病治療ガイドライン講習会

7月7日(日) 9:00～16:00

ザ グランドパレス徳島 (4F オークルーム I・II)

【趣旨・狙い】

「精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDE)」プロジェクトは2016年に始まり、これまで43大学、132もの医療機関が参加し、日本うつ病学会からのうつ病ガイドライン、日本神経精神薬理学会からの統合失調症の薬物治療ガイドラインについてそれぞれ一日の講習会を全国で開催して来ました。

講習会は午前中に座学でガイドラインのエッセンスを学び、午後にガイドラインの記載内容の実践・応用ということで2つの症例をグループに分かれてディスカッションするというプログラムからなります。

本プロジェクトは、講習会前後での理解度の変化及び臨床上の指標 Quality Indicator (QI) の変化を見る研究ベースの試みとなっていますが、研究には参加できないものの、この講習会を受講したいという声を多くの医師や基礎研究者、心理士、薬剤師、看護師などコメディカルスタッフ、さらには製薬企業関係者の方々から聞かれたため、2017年よりうつ病学会大会の翌日に特別に開催しています。

本年もプロジェクトの講習会さながらの内容で開催します。ガイドラインの記載内容だけでなく、うつ病をどのように評価、診断して治療を進めていくかについてより理解が深まるものになるよう、EGUIDEのファシリテーターが尽力する予定です。是非多くの方々にご参加いただければ幸いです。

気分障害の治療ガイドライン作成委員会 委員長
渡邊 衡一郎

EGUIDE プロジェクトチーム 代表
橋本 亮太

第16回日本うつ病学会総会 会長
大森 哲郎

事前申込期間

2019年5月1日(水)～2019年6月30日(日)

講習会要項

日 時：2019年7月7日(日) 9:00～16:00 (途中休憩あり)

会 場：ザ グランドパレス徳島 4F オークルーム I・II

<https://www.gphotel.jp/#access>

参 加 費：総会参加者：7,000円 (総会参加証をご提示ください)

本講習会のみ参加者：12,000円

募集人数：50名 (定員になり次第締め切ります)

申込方法：当日申込または事前に下記メールアドレスへ連絡してください。

E-mail：psychiat@ks.kyorin-u.ac.jp

事前申込の際には、大会ホームページより参加申込用紙をダウンロードの上記入し、メール添付にてお送りください。

参加者が事前に準備するもの

「うつ病治療ガイドライン第2版 (4,000円税別)」

<http://www.igaku-shoin.co.jp/bookDetail.do?book=93287>

※日本うつ病学会ホームページにも原文を掲載しておりますが、書籍の補記は理解の助けとなりますので購入をおすすめします。

講習会当日も販売いたします。

講習会内容

総合司会 渡邊 衡一郎 杏林大学

【午前：講義】

治療計画の策定

小笠原 一能 名古屋大学

軽症

坪井 貴嗣 杏林大学

中等症重症

杉山 暢宏 信州大学

精神病性

伊賀 淳一 愛媛大学

児童思春期

宇佐美 政英 国立国際医療研究センター国府台病院

睡眠障害とその対応

降旗 隆二 日本大学

【午後：症例グループディスカッション】

お問い合わせ先

EGUIDEプロジェクトうつ病 運営事務局

第16回日本うつ病学会総会 サテライト企画担当

杏林大学医学部精神神経科学教室

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

TEL：0422-47-5511 (内線2885) FAX：0422-45-4697

E-mail：psychiat@ks.kyorin-u.ac.jp